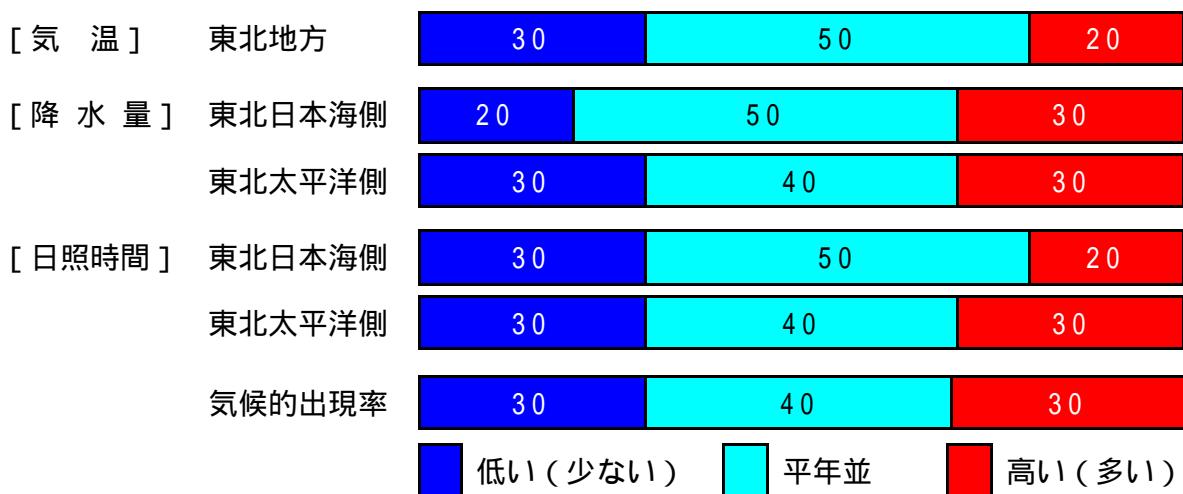


東北地方 1 か月予報の解説 (予報期間: 11月13日~12月12日)

平成11年11月12日 仙台管区気象台

1. 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)



[気温]: 東北地方は「平年並」の可能性が大きく、その確率は 50% です。次に大きい確率は「低い」で、その確率は 30% です。「高い」の確率は 20% と小さい。

[降水量]: 東北日本海側は「平年並」の可能性が大きく、その確率は 50% です。次に大きい確率は「多い」で、その確率は 30% です。「少ない」の確率は 20% と小さい。

東北太平洋側は有効性の高い予測資料は得られませんでした。各階級の確率は気候的出現率 (30%、40%、30%) と同様です。

[日照時間]: 東北日本海側は「平年並」の可能性が大きく、その確率は 50% です。次に大きい確率は「少ない」で、その確率は 30% です。「多い」の確率は 20% と小さい。

東北太平洋側は有効性の高い予測資料は得られませんでした。各階級の確率は気候的出現率 (30%、40%、30%) と同様です。

2. 予想される天候の特徴

(もっとも高い確率の予報が実現した場合の天候は以下の通りです。)

向こう1か月

東北地方は、低気圧や高気圧が交互に通り、天気は周期的に変化するでしょう。低気圧の通過後は一時冬型の気圧配置になる見込みです。東北太平洋側は平年同様晴れの日が多いでしょう。東北日本海側は平年同様曇りや雨または雪の日が多いでしょう。寒気が入りやすい時期があり、寒暖の変動が大きい見込みです。

この期間の平均気温は平年並の見込みです。

平年の晴れ日数は東北日本海側で約 9 日、東北太平洋側で約 19 日です。

各予報期間の天候の特徴

1週目…………… 15日頃気圧の谷が通り、天気が崩れるでしょう。その後は東北太(11月13日~11月19日) 平洋側は高気圧に覆われ晴れる日がありますが、東北日本海側は寒気の影響で曇りの日が多く、雨や雪の日の降る日がある見込みです。
なお、詳細は週間天気予報を参照して下さい。
平均気温は平年並の見込みです。
平年の晴れ日数は東北日本海側で約2日、東北太平洋側で約4日です。

2週目…………… 低気圧と高気圧が交互に通り、気圧の谷の通過後は一時冬型の気圧配置となるでしょう。東北太平洋側は平年同様晴れの日が多いでしょう。東北日本海側は平年同様曇りや雨または雪の日が多いでしょう。

平均気温は平年並の見込みです。

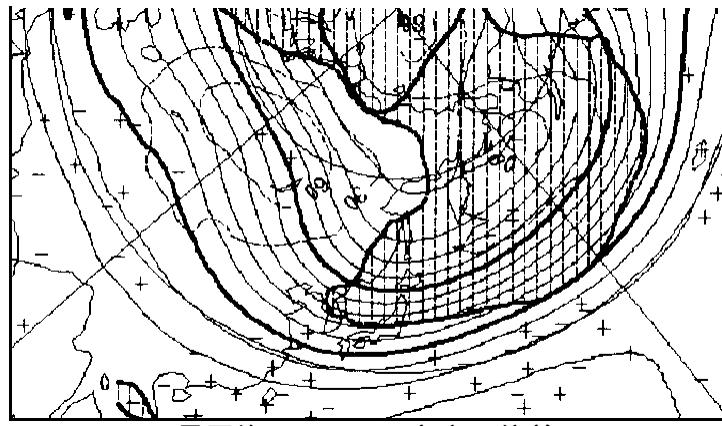
平年の晴れ日数は東北日本海側で約2日、東北太平洋側で約4日です。

3~4週目…………… 低気圧と高気圧が交互に通り、気圧の谷の通過後は一時冬型の気圧配置となるでしょう。東北太平洋側は平年同様晴れの日が多いでしょう。東北日本海側は曇りや雨または雪の日が多いでしょう。

平均気温は平年並の見込みです。

平年の晴れ日数は東北日本海側で約3日、東北太平洋側で約9日です。

予想される天候に関する循環場の特徴（アンサンブル平均天気図）

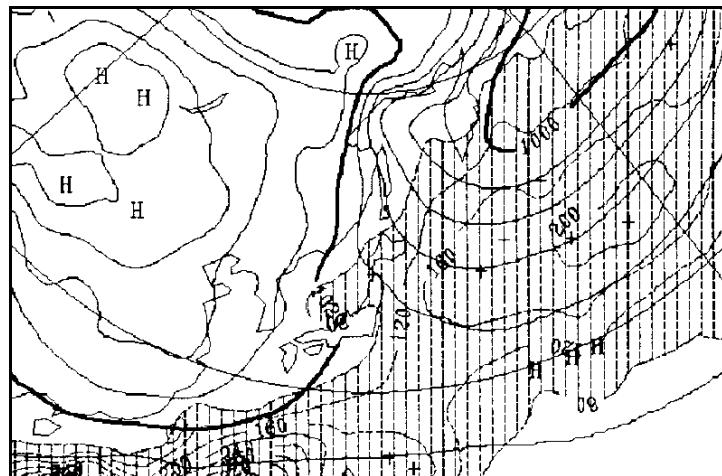


月平均の 500hPa 高度・偏差
(等高度 : 60m 每、偏差 : 30m 每、陰影部 : 負偏差)

・500hPa 高度・偏差

月平均でみると、日本付近の流れはほぼゾーナル^{注1}で、北日本から日本の東海上にかけて広く負偏差に覆われる。このため、低気圧や高気圧が交互に通り天気は周期変化するが、低気圧の通過後は一時冬型の気圧配置となる見込み。週別(図略)では、1週目は北海道以北、2週目はほぼ全国、3~4週目は東北以北が負偏差におおわれ、一時寒気の影響をうける見込み。

注1) ゾーナル: 偏西風の南北の蛇行が小さい状態。低気圧や高気圧が順調に東進し、天気は周期的に変化しやすい。



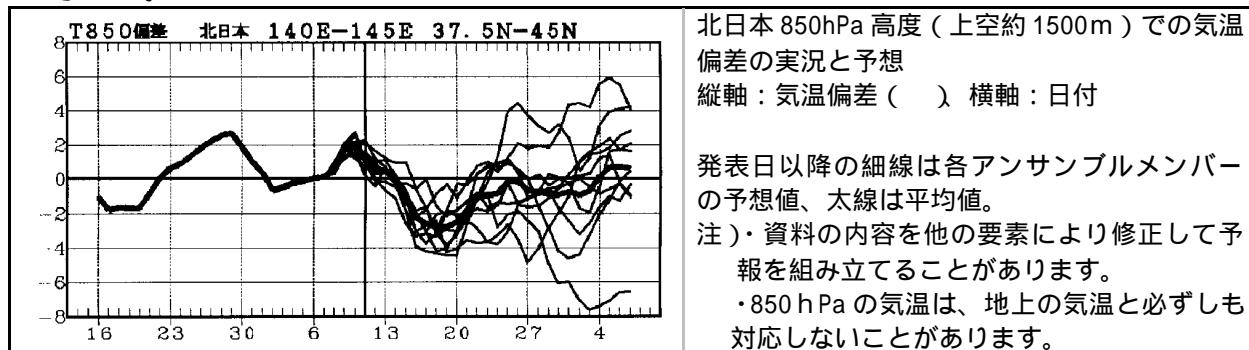
月平均の地上気圧と降水量
(等圧線 : 4hPa 每、降水量 : 40mm 每、陰影部 : 80mm 以上)

・地上気圧と降水量

月平均でみると、降水域は日本の東海上から南海上にかけてと北日本、日本海に見られ、冬型の気圧配置の時の特徴的な降水分布を示す。気圧配置も弱いながら冬型の気圧配置が予想され、低気圧の通過後、冬型の気圧配置になりやすい傾向を示している。

3. 北日本 850hPa の気温偏差の実況と各アンサンブルメンバーの予想

北日本 850hPa の気温は、アンサンブルメンバーの平均でみると、1 週目は平年を下回り、2 週目以降ほぼ平年並で推移する予想。2 週目以降は各メンバーのばらつきが大きく、信頼度は小さい。

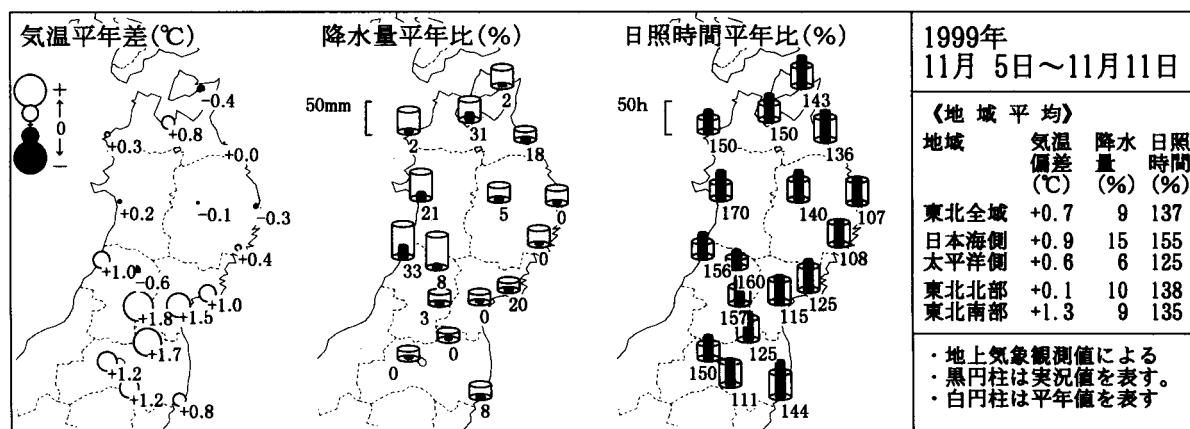


注: 1か月予報では、よく似た初期値から出発した10個の数値予報結果のバラツキ具合から予報の信頼度や確率を計算します(この手法をアンサンブル予報といい、10個の予報結果のそれぞれをアンサンブルメンバーといいます)。一般に予報結果がばらつかないほど、大気の流れが予測しやすい状態にあると考えられます。このような状態の時は、信頼度が高くなり、確率の大きな予報を出すことができます。

4. 最近1週間(11月5日~11月11日)の天候の経過

この期間、天気は周期的に変化した。5日は寒気の影響で東北日本海側で曇りや雨となつた。6~7日は東北地方は高気圧に覆われ概ね晴れたが、8日は気圧の谷の通過で曇りや雨となつた。9日は冬型の気圧配置となり、東北太平洋側では晴れたが、東北日本海側では曇りや雨となつた。10~11日は高気圧に覆われ概ね晴れた。特に11日の朝はよく晴れたため放射冷却で冷え込み、各地で初霜や初氷が観測された。

平均気温は東北南部では平年差が+1.3 と平年を上回ったが、東北北部では+0.1 とほぼ平年並だった。降水量は東北地方で平年比9%と平年を下回り、日照時間は東北地方で137%と平年を上回った。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差(比)